
やっと、逢えた・・・

月葉抄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やつと、逢えた・・・

【Nコード】

N6117D

【作者名】

月葉抄

【あらすじ】

蘭は、屋上で月を見ながら考えてきた。・・・新一。初の短編で、純新蘭です。軽く読んでいただいで結構です。

「きれい……」

家の屋上。

なぜか私は気分が落ち込むと、ここで月を見たくなる。でも、今日の三日月は淡く光っていて普段より綺麗だった。

そして、切なく、悲しい。

「新一も、どこかで見てるのかな。」

新一……今、どこにいるの？

逢いたいよ、新一……

気づくと、涙が瞳から零れ落ちていた。

「あれ、私、何で泣いてるの？」

コナン君は、今朝両親の所に帰ってしまった。どれだけ彼に支えられていたか今更になって気づいた。

止めようとしても涙はとめどなく流れ落ちる。

いつの間にか雪が降り出していた、今年の初雪。

「……雪。新一の所でも、降ってるのかな。」

新一、いまだどこにいるの？

早く、帰ってきて……

いつもは我慢できるのに、今日に限ってなんで我慢できないんだろ
う。

雪は、もう止んでしまっていた。

「風花……」

以前、新一に教えてもらった事があった。すぐに止んでしまっ、儂
い雪。

私も、この雪になって、新一に降り積もりたい……

私は、どうしようもなく淋しく、静かに泣いていた。
ふいに、ポケットの中の携帯電話が鳴った。

だれからだろう。

画面には、「非通知」と出ていた。

まさか……

期待しながらも、こんなに遅くに彼は電話してこない。

「もしもし……」

「よお蘭、俺だけど、起こしちゃったか？」

「新一……なの？」

その声はまぎれもなく新一だった。

「今、どこにいるの？逢いたいよ……」

「蘭、どうしたんだ？」

「お願い、帰ってきて・・・」

新一はしばらく黙ってから言った。

「外、出てみるよ。」

「どういう事？」

「いいから。」

怪訝に思いながらも、私は外に出た。

信じられない・・・

そこには、新一が立っていた。

私は新一に抱きついた。

新一は少し驚きながらも優しく抱きしめてくれた。

「ただいま、蘭。」

「お帰り、新一・・・やっと、逢えたね。」

そう、やっと、逢えた・・・

「ごめんな、待たせちゃまって。」

「ううん、何があったかは、聞かないから。」

そして、覚悟を決めて言った。

「新一の事・・・好きです。大好きです。」

きつと、私の顔真っ赤だろうな。

「新一は、私の事……?」

「俺もだよ。」

「……え?」

つい素っ頓狂な声を出してしまった。

「だから、俺も蘭の事好きだって事だよ。」

とても嬉しかった。告白された事はあっても、こんな気持ちになっ
た事は一度もない。

相手が新一だから、こんなに嬉しい。

新一、今私世界で一番幸せだよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6117d/>

やっと、逢えた・・・

2010年10月24日13時44分発行